

遠田雄志教授，佐藤康男教授，並木慎一教授 退職記念号によせて

この3月，経営学部の遠田雄志教授，佐藤康男教授，並木慎一教授が定年退職を迎えられました。法政大学経営学会では，長年にわたって法政大学の研究，教育等に貢献された三名の先生方を讃えて，『経営志林』の月号を退職記念号として刊行することとしました。

遠田雄志教授は，1942年に東京都に生まれ，法政大学工学部を卒業後，法政大学大学院社会科学部研究科経済学専攻修士課程に進学され，博士課程に在学中の1969年に経営学部の助手となり，そのキャリアをスタートさせました。その後，1972年に専任講師として教壇に立ち，1974年助教授，1981年には教授になりました。また，1992年度には経営学部長を務めておられます。講義では「組織認識論」や「組織コミュニケーション論」を担当されましたが，それは映画を題材に組織に内包する諸問題を解き明かすユニークな講義でした。研究でも，経営学の理論に「あいまい」性を取り入れた「ゴミ箱理論」を積極的に展開し，既存の経営学とは異なる理論体系を打ち当てています。

佐藤康男教授は，1940年に福島県に生まれ，1966年に法政大学経営学部を卒業し，法政大学大学院社会科学部研究科経済学専攻修士課程に進学され，博士課程に在学中の1972年に経営学部の助手になりました。その後，1975年に専任講師，1978年助教授，1982年には教授になられています。講義では，「管理会計論」「簿記」などを担当されました。大学院でも1992年の夜間社会人大学院の開校に貢献され，企業の会計部門担当者を積極的に受け入れる「経理人コース」（現「アカウンティング・ファイナンスコース」）を担当され，1994年度には経営学専攻の主任として，大学院の運営にあたられました。佐藤先生は，アメリカの最新の管理会計の理論を取り入れながら，日本企業の管理会計システムの実証分析で優れた研究を残されています。

並木慎一教授は，1946年に神奈川県に生まれ，1971年には東京都立大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程を修了されました。そして，1975年に法政大学第一教養部に専任講師として赴任され，1982年には教授とされています。大学改革の中で第一教養部が改組され，所属教員が各学部に分属されることに伴い，2003年4月に経営学部に移籍されました。講義は英語科目を担当されましたが，法政大学の英語教育における中心的な教員として活躍されました。また，先生は D.H.ロレンスの研究者としても優れた研究を残されています。

このように，三人の先生方いずれも35年以上にわたり法政大学に奉職され，研究や教育に尽力されました。この間の法政大学および経営学部の発展にかけがえのない貢献をなされたことは疑いもありません。今後は法政大学を離れることとなりますが，健康に留意されつつ，それぞれの新たな分野で益々のご活躍ご発展を祈念しております。これまでのご指導に深い感謝の念を持ちつつ，退職記念号刊行の辞とさせていただきます。

2011年4月

法政大学経営学部長

横 内 正 雄